



2学期は、中学部の「平野中学校との交流及び共同学習」、「二本松実業高等学校との交流及び共同学習」、「居住地校交流」の活動の様子について、お知らせします。

## 【中学部】平野中学校との交流及び共同学習

11月30日(木)に平野中学校2年生77名の生徒と交流及び共同学習を行いました。また、平野中学校生徒と本校中学部生徒の交流活動に先立って、平野中学校の生徒の事前学習として、中学校に本校の教員が出向いて、支援学校の紹介や障がいの理解と啓発などの出前授業を行ってきました。

本校で行われた交流では、ペットボトルボウリング班、ポッチャ班、フライングディスク班のグループに分かれて本校生徒と平野中学校の生徒がお互いに協力しながら活動することができました。また、平野中学校のみなさんからは合唱の発表をさせていただき充実した時間を過ごすことができました。

交流及び共同学習は、同世代の友達と交流できる貴重な機会となります。コロナ禍が続き、人と人が直接集まって交流を図る機会少なくなっていました。障がいの有無に関わらず、同じ場で共に学ぶインクルーシブ教育の構築に向けた実践的な活動を行うことができ、相互に互いを知り一緒に学び合う、有意義な時間を過ごすことができたと感じています。両校の生徒から「楽しかった。」「一緒に活動できて良かった。」等の感想を聞くことができました。

<フライングディスク班>やり方を話し合い、  
アキュラシーゴールをめがけて勢いよく投げていました。



<中学校での出前授業の様子>  
生徒達は、熱心に耳を傾けていました。



<ポッチャ班>互いに応援して、高得点を狙って、  
赤や青、白のボールを投げました。



<ボウリング班>互いに真剣勝負! 友達  
のピンが倒れると歓声が上がりました。

## 【高等部】二本松実業高等学校との交流及び共同学習

二本松実業高等学校の生徒が本校児童生徒の興味やニーズをもとに教材を制作し、実際に活用しながら交流を深めることを目的に行っています。今年度は情報システム科の3年生が3名来校し、計4回の交流に参加しました。交流の前半の回では児童生徒の興味・関心やニーズを把握し、後半の回では試作の教材を持参して児童生徒の操作のしやすさを確認したり、反応を観察したりしました。

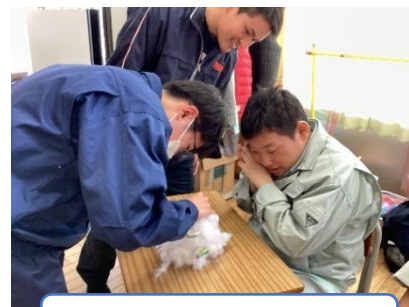
最終回の午後は報告会がありました。参加した高校生は「教材を考える大変さはあっても、児童生徒の皆さんの嬉しそうな表情や反応が、ものづくりの活力になることを体験させていただいた」と発表しました。校長先生の「これからも使用する人のニーズに応えられるものづくりを」という激励の言葉に表情を輝かせていました。



キャラクターの声が出るパズル



自分で操作して曲が鳴る機械



ふわふわ手触りのラジオ

## 居住地校交流の取り組みについて

居住地校交流は、「児童が地域社会の一員として将来地域で生きていくためのつながりをつくること」、「地域の学校の児童との交流及び共同学習における相互の触れ合いと教科等における学び合いを通じて、コミュニケーションの力を高めたり、社会性を身に付けたりするなどの資質・能力の育成を図ること」を目的として実施している取り組みです。対象は、交流を希望する小学部の児童です。今年度は4名の児童が、地域の学校の児童と共に学習に取り組み、交流を深めました。初めて会う友達に緊張する様子も見られましたが、ゲームを楽しんだり、鍵盤ハーモニカと一緒に合奏に取り組んだりなど関わりを深め、お互いに刺激を受けながら意欲的に学習に励んでいました。



一緒になわとびに挑戦しました。



きれいな音色に笑顔になりました。

